

クラス番号	641	担当教員名	小林 勇人
テーマ	働くことと社会保障の関係に着目し、福祉社会への転換を考える		
著書・論文 研究課題等	研究課題：アメリカの公的扶助改革と就労支援 著書：2010『アメリカ・モデル福祉国家Ⅰ』（共著）、2012『労働と生存権』（共著）、2012『福祉政治』（共著）、2013『公共性の福祉社会学』（共著）、2014 <i>Basic Income in Japan</i> （共著）		

ゼミナール概要

キーワード：能力主義、所得保障、社会保障、公的扶助、就労支援

1. 社会背景

近年、雇用や家族の不安定化により貧困問題が深刻化し、社会保障制度の持つ重要性が増しています。戦後の福祉国家では、「夫である男性が勤め人として賃労働を行い／妻である女性が主婦として無償でケア労働を行う」という「男性稼ぎ主／女性ケアラー」モデルを核として、生活を保障する制度が形成されてきました。特に日本では、雇用保障が社会保障を代替し、男性正規雇用（と専業主婦）の世帯を中心に社会保障が形成されたため、非正規雇用や共働き、一人親の世帯に対して社会保障が十分に機能していません。本来ならば拡充すべき所得保障（生活保護、児童手当、年金・雇用保険等）や福祉（介護・介助・育児）サービスは抑制され、個人や家族の自助努力が求められる傾向が強くなっています。

2. 目的・内容・方法

本ゼミの目的は、低所得・失業・貧困問題に対して、個人の「自己責任」に還元するのではなく、社会がどのように応答して人々のニーズを充足していくのかを考えることです。ゼミ内容は、皆さんの関心に応じて多岐に渡ることが予想されますが、労働と社会保障の関係に着目しながら、主に制度・政策分析という方法からアプローチします。たとえば、若者やシングルマザー、障害者、高齢者など就労困難な層が、働きやすく暮らしやすい社会にするための制度・政策について考えます。

（労働）能力の有る・無しや高い・低いによって、受け取ることができるものや生活のあり方、さらには存在価値までもが大きく異なるのは、おかしいんじゃないか？ そんな問題意識のある人を歓迎します。

3. 授業計画

（3年生）

前期：各自の関心でグループ化 → グループで文献研究・発表 + ディスカッション → 基本的な概念や理論を習得 → 個人で研究テーマの選択 → 小レポート（A4二枚）

後期：個人で文献研究・発表（小レポートの倍増化） + ディスカッション → 研究テーマの深化・具体化 → 中レポート（A4六枚） *希望に応じてフィールドワークも実施

（4年生）

前期：就職活動など各自の状況に合わせてながら、中レポートを膨らませて卒業論文に近づけます。

後期：卒業論文（A4十枚）を完成させ、卒業論文集を作成します。

担当教員からのメッセージ



私はこれまで能力主義に問題意識をもちながら、アメリカや日本の公的扶助を研究してきました。詳細は <http://workfare.info/> をみてください。

制度・政策分析ときくと難しく感じる人もいるかもしれませんが、社会の「仕組み」について考える力を養うことは、将来どの分野で働く場合でも多いに役立ちます。問題意識のある人や真剣に学びたい人を歓迎したいので、エントリーシートでは、（１）関心のある社会問題、（２）関心のある制度・政策、について具体的に書いてください。

大学生活においてゼミでの２年間は、真剣に学問を学ぶ刺激的な時間と、大切な仲間に出会う機会を提供してくれます。楽しいゼミにしましょう！